

平成14年度 岩手県読書をすすめるつどい開催

- ◆ 昭和35年に岩手県独自のものとしてスタートした「岩手の読書週間」も今年で43回目を迎えました。
- ◆ この週間中には、県立図書館で「第23回手づくり絵本展」を開催したほか、県内各地の公共図書館及び公民館
- ◆ 館図書室を中心に、講演、展示会、各種講座など多彩な行事が繰り広げられました。

岩手の読書週間の行事として、2月13日（木）、サンセール盛岡を会場に「平成14年度 岩手県読書をすすめるつどい」が297名の参加を得て開催されました。

主な内容を紹介します。

講演 10:10～

表彰式 11:30～

読書推進団体等交流会 13:00～

ア 読書グループ・文庫等関係者のつどい
活動発表

読む会（北上市）

ちえの輪（東和町）

イ 図書館ボランティア関係者のつどい
実技

人形劇サークル「じゃんけんぼん」（軽米町）

おはなしペパン（陸前高田市）

【講演概要】

演題 「行間を読む－インナーリズム－」

講師 NPO法人 紫波みらい研究所

所長 高橋力氏



只今、ご紹介を頂きました高橋でございます。

2月の11日の岩手日報紙の「紙風船」を見ましたら、「盛岡市の県立図書館（相原康二館長）は、心無い利用者に乱雑に扱われ、痛々しい姿に変わり果てた書籍17冊を展示している。破いたり、切抜きや落書きなどして返却する利用者が後を絶たないことから、同館の職員が啓発の意味を込めて企画した。奉仕課の澤口祐子参考調査係長は『本も泣いています』と書籍の気持ちを代弁。並べられた本たちは、万人に読まれるべき本来の使命を

途中で終えてしまう不幸を読書人に訴えている。」という記事がありました。名文でありますと同時に、行間を読むと心の痛む思いがいたしました。

また、県教委「はばたき賞」の受賞について褒め称えられた記事がありました。この行間を読むと、それまでの耐えざる努力、研鑽、心の充実があったらうと、頭が下がる思いであります。

さて、行間を読むというのは、本当の心を読み取ることであります。先人は「紙背を読む」と申しました。文章の言外に含まれる意義を読み取る。或いは、「眼光紙背に徹す」と申しまして、書物などを読んで、ただその字面の解釈にとどまらずに、その言葉の行間に含まれた深い意味を読み取るのであれば、本当に読み取ったということにはならないという意味であります。

仮に上司が「君、その様な仕事ぶりでは駄目だ。今日限りここを辞めたまえ。」「君、いつまでこういう文章を書くんだ。こういう文章では駄目だよ。いつまでもこうであれば、仕事を変った方がいいね。」等と言ったとする。子ども達でもいいんです。「今何時だと思っているの。11時30分だよ。中学生が11時30分に家に帰ってくるなんてことがあるの。出ていきなさい。」と言ったとする。その「出ていきなさい。」なり、「もう、あなたは仕事を変った方がいいんだよ。」とか「文章はこう書くもんだよ。」と言われたときに、行間を読めないとうなるか。行間を読めない子どもはどうとるだろう。行間を読めない職員はどうなるだろうか。こういうことを常に考えなければならないということでもあります。

北宋の文人で蘇軾という人が、次の文言を私どもに示しました。「寛而見畏 嚴而見愛（かんにしておそれられげんにしてあいせらる）」と。これは、指導者の条件を言っているのです。例えば政治家の場合、或いは教育行政の場合、図書館行政の場合、学校の先生の場合、或いはPTAの場合、いずれの場合でもいいのです。「寛而（かんにして）」の「寛」というのは、寛大である。寛容である。寛恕である。寛仁である。寛博である。寛雄であるというふうには、度量が広く大きくて、人をよく受け入れる人物。それだけでは指導者にはなれない。その裏に何がなければならないかということ、畏敬の念を持たれるものがなければならない。畏敬の念というのは、その道その道の権威を持っているということ。読書を指導する人であれば、読書を指導するオーソリティーを持っておる。

読書指導の泰山北斗である。その分野で最高水準の権威、威厳を持っておるといことが大切である。だから、度量が広く大きく、人をよく受け入れる人物であるが、その人物の奥底には、「ただ愛する。ただいい人だ。あの人は心の広い人だ。」だけではなく、根底に威厳がなくして駄目である。他の人が入ってきて、その威厳を壊すことのできないものを持っている必要があるという意味であります。「厳面見愛」も同じことで、その人の指導が厳重、厳格である。厳正である。厳訓である。厳峻である。このように指導助言、或いは訓育、アドバイスが厳格、厳重であるが、その指導に対して憎しみや反感を持つということにはならず、親愛の情を持たない訳にはいかない。敬愛せずにはいられないという人物でなければならないということでもあります。或いは、全てに節度があつて厳正ではあるが、何としてでも憎しみなんか持たない。いっそう愛情が深くなり、敬愛の情が深くなるという人物になるのだという意味です。従つて、この両方を言ってみますと「寛大にして、しかも一方においては畏れられる厳しさを持っていなければならないし、また、厳重厳格であるけれども、一方においては愛せられる一面を持っていなければならない。言ってみれば、寛厳よろしきを得なければならないのが指導者の大きな条件なんだよ。」との文言であります。

中学生、高校生の姿を見てみますと、「はばたき賞」を授与された優れた沢山の生徒達。私どもに大きな感動、感激を与えてくれる高校生。更に、手本にしなければならないという青年も沢山います。反面、「どうかな。これでは心が減びるのではないか。」と感ずることがあります。

宮沢賢治先生には大変申し訳ありませんが、あの「雨ニモマケズ」に切り継ぎをするとこうなります。

現代版「雨ニモマケズ」

「雨にもあてず、風にもあてず、夏の暑さにもあてず、(女の子) 弱い体に超ミニスカートやルーズソックスをまとい、(男の子) 茶髪にピアス、ワイシャツの裾を外にダラリとなびかせ、ズボンを腰からはずれるように履き、意欲も気力も無く、いつもブツブツ不満を言っている。一日に何本ものジュースやコーラを飲み、ご飯も野菜も食わずにインスタント物を摂り、毎日毎日目標が無く、携帯電話に夢中になって頓狂な声を上げ続け、夜はいつまでも人込みの中にながら、朝から地べたにベタリと座り込み、集会があればじっと立っていることが出来ず、すぐ倒れ、あらゆることを自分のためにだけ考え省みず、作業はグズグズ注意散漫すぐに飽き、そして一切の責任を持たず、とかく問題の多い都市化の中の最も豪華な部屋にいて、東に病人がいれば『医者が悪い。』と言ひ、西に疲れた母あれば『養老院に早く行け。』と言ひ、南に死にそんな人あれば『寿命だ。寿命だ。』と言ひ、北に喧嘩や訴訟があれば遠くから眺めてかかわらず、日照りのときは冷房を掛けて昼寝をし、寒さの夏はヒーターを掛け

てゲームをし続け、仕事を頼めば『勉強。』、その勉強を隠れ蓑にテレビを見続け、手伝いもせず、叱られもせず、怖いものは全く知らず、そういう現代っ子に誰がした。』

そして、現代版「雨ニモマケズⅡ」

「勉強もせず、手伝いもせず、放課後は他人の自転車を失敬して途中で乗り捨て、携帯電話で親を呼び出して車に乗り、『親父、遅すぎたぞ。何分待ったと思う。何で遅れた。』と怒鳴り、決して『ありがたう。ごめんね。』とは言わない、口を開けば体の不調を訴え、ピアスや化粧をしながら性非行を夢見ている。そして、いつもイライライラ周りを怒鳴り散らしている。一日に15本程のタバコを吸い、時々酒を酌み交わし、朝は遅く起きて食事を摂らず、ジュース、菓子類で間に合わせている。あらゆることを出会い系サイトに求め、自分の感情のままに行動し、時には他人を脅迫し、親や先生の言うことは全く聞き入れず、やるべきことをやらず、責任を取らず、全てを人のせいにしてうそぶいている。タバコを片手に麻雀にふけり、終われば酒を囲んで雑談に打ち興ず。空き家や部室に忍び込んで悪事をだんじてはやむ。何もかも揃え整った個室にいて、東に病気で泣く子どもあれば『うるさいからどっかに行っちゃえ。』と怒鳴り散らし、西に疲れた母あれば『邪魔だ。だから早く身を隠せ。』と責め続け、南に死にそんな人あれば『風葬かな。鳥葬かな。水葬がいいんじゃないか。』と言ひ、北に喧嘩や訴訟があれば『もっとやれ。もっとやれ。もっとやれ。』とはやし続け、日照りのときも浪費を止めず、寒さの夏は暖房を燃やして非行を練り続け、歪んだ社会に一層拍車をかけ続ける。皆から嫌われ相手にもされず、相手にされないもの同士が結びついている。そういう者に、今、俺はなっている。」

この私の申し上げたことの行間を読み取っていただきたい。しかし、今だって沢山の優秀な子ども達がいます。沢山の感動を受ける子ども達がいます。沢山、福祉活動に従事している子ども達もいますが、今私が申し上げたような子ども達も、無しとしない。かなり多くいるのです。これは昔だって居ない訳ではなかった。

一つの例をあげてみましょう。

私が教員になって間もなくのこと、今65歳の教え子がPTA会報に書いてあるので話します。高校時代のことをね。

1月の20日過ぎの、雪が深々と音もなく降る夜のことです。彼はこう書いてあります。「ある冬のこと、表小路に住まいをしていた僕の下宿は、クラスメイトの溜まり場となるのが常であった。担任のT先生が突然尋ねてきた夜、僕等は一升瓶を何本も空けて、いい気分になっていた。ガラリと障子を開けて部屋を一瞥した先生は、酒臭い息を吐いて青くなっている僕等を一喝した。『馬鹿者一。サイダーなんかで酔うんじゃない。』と言うなり、先生はきびすを返して降りしきる雪の中に姿を消していった。」と詩人らしい文章ですよ。行間を読んでもらえばいい訳

です。教員になったばかりの私がガラッと開けたでしょ。いやあその、青鬼、赤鬼、まだら鬼の宴会の声が聞こえるんだから。躊躇しましたよ。障子を閉めて雪の中にまた行く。また戻る。開ける。もっと高く聞こえてくる。閉める。また行く。その時に何が頭に浮かんだかという、これを知られた生徒は職員会議にかけられて、親が呼び出されて停学か退学か、いずれ処分を受けることになる。子どもの親や、子どもの心がまず行間を読む中に入っている。もう一つは、青年教師の責任はどうなるんだと。知りながら行き過ぎるとは、なんとという卑怯な教員だということになる。「入るべきか入らざるべきか。」しかし、心は決まりました。そこで彼等に「サイダーなんかで酔うんじゃない。」と……。しかし周りを見ると、一升瓶が何本もある。缶ビールなんて無い頃で、ジュースの瓶、サイダーの瓶もある。タバコの灰皿がある。「明日の朝、6時前に学校に來い。昇降口の南側の部屋に入って待っておれー。」さあ、朝行きました。そしてそこに彼等が來ると。「おはよう。」と言ったって声が無い。「一体どういうことだ。ここに並べ。よく聞け。小学校、中学校時代の恩師の先生方の姿を頭に浮かべろ。毎日働いている、お父さん、お母さんの姿を目に浮かべろ。行ないというものは、心が美しいと行ないが美しくなる。汚い心から出たものは汚い行ないになる。昨晚のことは、どういう心から出たのか。今度のことが分かって一番悲しむ人の名前を言ってみろ。」と言った。「母です。」父というのはあまり出てこない。そこで「そうか。あのな、責任を取ってもらおうぞ。その責任を取るといのは、一番心配しているお母さんに代わって責任を取ってもらおうということだ。」その次に「今度のことが分かって悲しむ人の名前を挙げてみろ。」と言ったら、「小中学校の担任の先生です。」と、「そうか、じゃあその中学校の先生、小学校の先生に代わって責任を取ってもらおう。その責任を取ってもらう前に、宿題を出そう。その宿題は、どこから見ても魅力的な青年になること。どこから見ても魅力的な高校生になること。それには、まず本を沢山読め。本を読むんだ。本を読まなければ、魅力的な高校生になんかなれないんだ。」と言った。そこで終わったんじゃないんです。もう時効になったから話すんですが、「並べ。間隔を取ってここに並べ。眼鏡は後ろに置け。歯は食いしばるんだ。そのお母さんと、小中学校の担任の先生に代わって責任をとってもらおうぞ。殴るぞー。」と言って殴ったんです。暴力教師です。すみません。泣きながら殴ったんです。まず、担任としての情けなさ。お父さんお母さんに対する済まなさ。本も読まずに、この様な脱線を繰り返さなきゃならんという、高校生の貧弱さ。何もかもが情けなくなってきて、泣きながら殴りました。そうして、次々と握手をして「魅力的な青年になるんだよ。」と言って抱いた。泣いた。それから10日も経った時に「先生。ちょっとお話があります。」と職員室に來た。

「どういうこと。」そう言いましたら「ここではちょっと。この間の部屋までお願いします。」と言うので行きました。「おう、皆、宿題をやっているか。」と言っても下ばかり見て何も言わない。「何も言わなければ分からないじゃないか。どうした。」「先生言ってもいいですか。」「ああ、いいよ。」「あの一、何の通知も来ません。職員会議の結果はどうなったんですか。処分はどうなったんですか。」こう聞くので、「何?」「この間の晩のことです。」「ああ、この間の晩見たサイダーのことだろ。サイダーで何で停学になったり、退学になったりするんだ。」「いいえ、あの時はビールと酒とタバコをやりました。」「馬鹿なこと言うんじゃない。私の見たのはサイダーだけであって、そういうことは一切無かった。」と言ったら、ワーと泣き出した。「先生。と言うことは、職員会議にもかけず、更には停学や退学にもならず、おふくろにも、昔の先生方にも知られないということですか。」「そういうことさ。パンを食べたからそうなるとか。牛乳を飲んだからそういうことになるということは無くないじゃないか。」と言ったら、泣きながら「先生。もっと殴ってください。立派な生徒になります。魅力的な青年になります。」と言ったんです。

私は、そういう諸君たちに出会いました。私の親友たちです。

他の資料については、このように読んでいただければ幸いです。つたない私の話を聞いていただきましてことに心から感謝し、皆さんの活動が一層躍進しますことを祈念し、終わることにいたします。

ありがとうございました。

(文責/県立図書館)



交流会概況

二つの交流会で実技や活動状況の発表、意見交換等を行ないました。各交流会での感想の一部を紹介します。

読書グループ・文庫等関係者のつどい

- ・ 読書は、その本で感動することが楽しみです。月一回の読書会を楽しみにしています。
- ・ 司書の方が会に参加するのは意義があることだと思います。図書館の人は、読書会を覗いてもらえればと思います。

図書館ボランティア関係者のつどい

- ・ 大変素晴らしかった。ここまでボランティアの活動が徹底されているのは素晴らしい。
- ・ 子どもと読書をどのように結び付けていくか、子どもに良いものを提供していかなければならないという役割が大人にはあると思う。